

変わりゆく**認知症**の妻を

記録し続ける元調査屋の物語

マオさんと

一緒にいるときが

いちばんほっこりするわ



妻のことを

なんにもわかって

いなかった

東京ドキュメンタリー映画祭2019 グランプリ受賞!



家族を顧みず、仕事一筋に生きてきた。

元調査屋の男は、認知症を発症した妻の記録を始める。

日々変わりゆく妻のために何ができるか。

おぼろに浮かび上がる、愛の記録。

マオさんの恋文

DVD・BD 50,000円税別(館外上映権付)

ドキュメンタリー映画 HD 78分

マオさんは何でも **調査する** **記録する** そうして生きてきた
でも、妻との余生はそう上手いかなかった
企業戦士として戦後を駆け抜けたマオさんと、
その妻の日常を温かくユーモアを交えて描く
“**ほのぼのドキュメンタリー映画**”が誕生した



調査屋マオさんとは？

終戦後、マオさん（幼少期）は、命からがら釜山から新潟へ帰還。大学時代は学園闘争に明け暮れた。大学卒業後、当時の日本には数少なかった市場調査の会社を起業。大阪から東京へと進出し、数々の大手メーカーから市場調査の委託を受け、調査・企画・計画推進の最前線に身を置いた。その調査方法は、精通者に質問して教えを乞うという同業者がやっていなかった独自のアンケート方法であったという。

仕事に明け暮れる日々…気がつくくと、家庭は崩壊寸前だった。息子のひと言で我に返ったマオさんは家族の絆を取り戻す。



まお 佐藤 眞生さん
昭和14年 朝鮮生まれ
新潟育ち 大阪在住

妻の変化

妻の縫子さんと余生を過ごしていたマオさんだったが、かつて料理教室を開いて縫子さんが、料理をしなくなった。それは認知症のはじまりだった。マオさんは特別養護老人ホームに入居している妻の元に、毎日欠かさず通い続け、日々変化する妻の言動を記録し続けていた。それは、調査屋の矜持と過去に苦勞をかけてきた妻への想いだった。



めいこ 佐藤 縫子さん
昭和5年 京都生まれ

地元・関西での先行上映が大好評を博し、感動と共感の輪が広がる。

東京ドキュメンタリー映画祭2019グランプリを受賞した本作は、高度成長期を生きた主人公とその妻という1組の夫婦の人生と、余生を描き、大きな共感を得た。

記録がね、とっても優しいんですね。メモが優しくて 普段気にも留めないような夫婦の会話、奥様のお話ってのをメモされるなんかそれがすごい素敵な夫婦の在り方だし素敵な生き方だなあっていう風に思いました。 (40代女性)

開始2秒で泣きました。
はじめのワンシーンにこの夫婦のすべてが詰まってるなあと。 (30代 介護福祉士 男性)

東京ドキュメンタリー 映画祭2019 グランプリ受賞！

監督は大阪を基盤に、地元へ根差しながら、映画とテレビ、両輪で制作を続ける今井いおり。今回が本格的な劇場公開作となる。

夫婦とは何なのか。
認知症とは何なのか。そして人生とは。
その答えを探し続け、綴られる
“**ほのぼのドキュメンタリー**”。

より詳しい情報は
こちら！



公式サイト

最新情報はこちら！
@ioriimai



ツイッター